

## 第2回 生駒市総合計画審議会 全体会

1 日 時 平成25年6月24日（月）午前10：00～

2 場 所 生駒市役所 4階 大会議室

3 出席者

（委員） 中川会長、久会長代理、加藤委員、梶井委員、楠下委員、久保委員、永野委員、室井委員、森岡委員、井口委員、今任委員、大野委員、竹内委員、生川委員、福島委員

（事務局） 今井企画財政部長、西川企画政策課長、岡田企画政策課長補佐、岡村企画係長 加納企画係員

4 欠席者 なし

5 議事内容

（総合計画の進行管理について）

【中川会長】 議事の進行上、議事3「総合計画の進行管理について」から進めたいと思います。

【事務局】（総合計画の進行管理について、資料3、4、5を説明）

【中川会長】 ご質問等ございますか。

【加藤委員】 部会の進め方について。検証に際しては、指標等の追加を提案していくのか、できているものに対して審議を進めるのか、どちらか。

【事務局】 各部会で検証していただく分野については、総合計画に書かれている51の小分野を3部会に振り分けしている。各分野の進捗状況を測るということで、検証シートには各主体の取組状況や指標はあらかじめ掲載しているが、検証を進めていく中で、こういった指標があった方がいいといった御意見をいただいたら新たに追加させていただく。

【加藤委員】 例えば子育て支援と児童虐待、さらに児童虐待でも、DVと男女共同参画といった分野は互いにリンクする。リンクする分野のシートもお見せいただけるのか。

【事務局】 事前に御要望いただいたら準備させていただく。

【加藤委員】 次回の会議の際にNo. 132とNo. 211のシートをいただきたい。

【事務局】 分かりました。本日は、次回第1回部会の資料をお手元にお配りしている。

【中川会長】 他はございませんか。

【事務局】 お配りした部会資料と一緒に質問票を付けさせていただいている。他部会の資料が必要ということであれば、質問票とともに事前にご依頼いただきたい。

【井口委員】 代替指標について。今回から評価の対象になるのか。

【事務局】 はい。3年間検証してきた中で、どうしても毎年進捗状況が測れないとか、その分野の目指す姿をあらわすのには適していない指標が出てきたので、改善していくという前提で代替指標を設定した。代替指標を始めたのが一昨年からなので、それをもとに今回内部評価をしている。

【森岡委員】 私の希望としては、担当課の手持ちの資料を具体的に提示していただきたい。指標の中身について詳しく知るためにも、担当課に積極的に努力していただきたい。

【久委員】 私はいつも思っているが、どうしても数値指標が出てくるとそれを追っかけていくということに興味・関心がいってしまう。本来はその指標を追いかけているのではなく、それぞれの目指す姿がどうなっているかということを追っかけているのである。今後も総合計画の目指す姿を中心に考え評価をする、という視点を持ち続けていきたい。

代替指標の設定は、これよりもこっちの方が分かりやすいという視点から出てきている話だと思うので、それぞれの委員の皆さんももう一度原点というか、この総合計画に目指す姿として何が書かれて、それがどう達成されているかということについての評価だということによって再認識をお願いしたい。

【生川委員】 アンケートのサンプリングの仕方について教えていただきたい。

【事務局】 平成24年度に市民の方3,000人を対象に無作為抽出した。ただ、人口の年齢や性別、地域については、母数がある程度反映される形になるように、全体のバランスがとれるよう3,000人を抽出してアンケート調査を実施した。回答率は52%で、全体で1,565件がサンプル数となっている。データの有意性についても検証済みである。

事業者アンケートについては、生駒商工会議所様に御協力いただき、会員約1,000社のうち500社を対象に業種のバランスを図って抽出し、アンケート調査の御協力をお願いし、約200社からご回答をいただいた。

【中川会長】 私が第一部会で、第二部会が久委員で、第三部会が加藤委員という分け方で、標準の審議時間は2時間半なので150分。1回について5ないし6項目ずつなの

で、大体1事業当たりの検証時間は25分程度になる。それぞれの部会に委員が5人おられるので1人の持ち時間は5分弱となるだろう。ただし、それを全員で使い切ってしまうと最後に総合評価を協議する時間もなくなる。最終評価をどうするかというのは協議する必要がある。意見が割れることがあり、判断が必要な場合もある。厳しい評価をした方が将来のためになるのか、いろいろなパターンがある。それを協議する時間も考えると、1人あたりの時間は長くとも4分程度、標準3分程度になる。そういう目安を心得ておいていただきたい。

【今任委員】 第2部会は全て13時半からという理解でいいのか。7月4日だけが13時半からということか。

【事務局】 節電対策の関係で市役所の執務時間を電力ピークの時間帯を避ける意図で、職員の休憩時間を1時間遅らせるということで、通常12時から1時のところを夏期期間に限って1時～2時に変更させていただいる。よろしければ、会議開始時間を2時からに変更させていただきたい。

【久委員】 7月4日は私が4時半から大学の会議があるため、その分前倒しにさせていただいている。

【事務局】 7月4日の第二部会のみ開始時間は1時半からでお願いしたい。

【今任委員】 それと、もう1つ質問したい。今回の評価結果は、例えば職員の給与に影響してくるのか。

【中川会長】 それとは関係ない。

【今任委員】 では目安の数字ということか。

【中川会長】 ただ、指標が適正かどうかの議論もあり、事業の目標と成果について見直しを提案することもあり、緊張感はある。

【久委員】 先ほども述べたが、目指す姿がどれだけ進んでいるかどうかということを中心にやっているわけである。会議でヒアリングをするといつも「頑張ってます」とおっしゃる。確かに頑張っているし誰もサボってない。でも、その頑張りが違う方向に行ってしまうと目指す姿を達成できないことがある。それに対して我々がアドバイスをするという大きい役割があると考えている。

もう1つは、市役所が頑張っているけれども目指す姿が達成できないのは、市役所だけの責任ではない部分がある。市民が協力していないかも知れない。そうすると、その目指す姿が達成できない要因というのはどこにあるんだろうかということ、この評価する部

会でしっかりと皆さんと議論させていただいて、それを的確に市役所の方にお返しをするというのが我々の役割でもあると思う。

【今任委員】 評価の対象の項目というのは、ここに今、セレクトされている。これ自体が目指す姿に近いか遠くないかというのは、いい点が多いか少ないかということ。そうすると、選択した問題そのものも、これ以外のことも含めて、こういうことがあるんだったらこういうことをしなければならないというようなところも含めてやるのか。時間の制限の中でやるので、目指す姿を念頭に置いてこれを評価するということは、この数字の上、下というところでしか評価できない。全く新しい項目を新たに入れるわけではないので。

【中川会長】 基本的にはそこに設定されている評価項目を評価する。ただ、その要因分析というのが余りきっちりできていないので、外部要因がどう作用しているか、内部要因がどう作用しているか、そこまでの分析はまだできていないので、それを各委員が助言をするということはある。

【大野委員】 基本構想と基本計画について。これは市長や議員の公約を反映しているのか。

【久委員】 これは、次の「総合計画のあり方について」の案件で議論した方がいいと思う。

【中川会長】 まず、総合計画というのは正式用語ではなく、正しくは基本構想という。地方自治法第2条第4項で定められていた。ところが、民主党政権の義務付け枠付けの解除で、基本構想の定めはそれを議会に議決を受けなければならないというのが外された。それ以前は法律上義務づけられている市の将来構想であった。

その基本構想というのが正式名称なので、基本構想というものはすべて議会の議決が必要だということになる。その縛りはきついで、三層構造にしたり二層構造にしたりするのが一般的。その一番トップの基本構想部分の下に基本計画というのを作って、さらにその下に細部の実施計画を作ったりするというのがだんだん一般的な流れになってきているが、基本構想というのは市の将来10年間の目指すべき姿であり、基本計画というのは、それを実現するための行政のいわば手順というか、基本目標をあらわすものになっている。

だが、生駒市は議会において地方自治法96条に基づいて議決事項として基本計画部分まで議決対象とすると決めた。それは何を意味するかというと、議会も含めて基本計画までを市全体の意思とするということ。つまり、団体の意思とする。これまでは議決を受けた基本構想は団体の意思だから首長が替わろうと替わるまいと変えることができない。で

は首長は、任期の間で自分の施策を実現したければ、基本計画を出すということになる。だから、大きな自治体は前期基本計画、後期基本計画と分けている。ただ、前期5年、後期5年の10年とすると首長と任期がずれ、実態もかなりずれてくるので、最近では前期、中期、後期と4年ごとに分けるというケースもある。

行政の意思というのは実は首長の意思と分ける必要がある。行政は首長の補助機関なので。だから、そういう点では基本計画以下を首長は責任を持つ、基本構想は議会も含めて責任を持つというのが一般的な市のあり方である。ただ、生駒市の議会は基本計画も議会が責任を持つとおっしゃった。議決するというのは、基本計画まで含めて議会も一緒に責任をとりますという意味だと私は思う。

次に市長が替わったら、後期基本計画に自分の政策を入れてほしいという余地はあるが、基本構想を否定することはできない。

【大野委員】 それは憲法みたいなものか。

【中川会長】 そう思う。ところが、そうすると外部状況の変化に対応するため基本構想は割と緩やかに決める傾向がある。

(総合計画のあり方について)

【事務局】 (資料1、2について説明)

【中川会長】 ご質問等ございますか。

【森岡委員】 来年1月の市長選挙の時期と、後期基本計画の策定期の関係性についてお教えいただきたい。

【事務局】 策定期が遅くなれば後期基本計画策定がずれ込む可能性がある。その対策として、新しい後期基本計画ができるまでの間は今ある前期基本計画を踏襲して進めていきたいと考えている。

(後期基本計画の策定について)

【事務局】 (資料1、2について説明)

【中川会長】 ご質問等ございますか。

【生川委員】 満足度調査は今後も2年に1回実施する予定なのか。少子高齢化や雇用情勢や政治の状況を考えると、2年ではなく1年にした方が目指す姿イコール指標になると思ったので。

【事務局】 現在、満足度調査については2年ごとに1回ということではさせていただいている。他市の事例では、神戸市や京都市は毎年満足度調査を実施している。毎年実施することも可能だが、社会状況の外的な要因であったり、行政の施策の成果が出るまでにどうしても時間がかかるというところがある。行政がこういう施策を打ったからこのアンケートにこういう結果が出たという因果関係についても非常に分析が難しいところもあり、それを2年に1回でやるのがいいのか、例えば4年に1回実施して、その成果を最後に検証するといった方法もあると思う。検証の方法については今後もう少し検討いただきたいと思うが、今のところ、2年に1回で検証することで大体の市民の方の実感している状況というのがつかめるのではないかと考えている。

【森岡委員】 審議の進め方でお聞きしたい。今日審議をして、一定の方向性を示す必要があるのか、今日は説明だけで、別途に意見を表明する場を設けていただけるのか。

【事務局】 これは非常に大事な内容なので、最終的な決定については第3回の全体会である程度方向性を出していただきたいと考えている。今後、部会で進捗状況を集中的に審議していただき、部会が終わった後、8月22日の全体会である程度方向性を決めたいと考えている。本日ご意見をいただいてから、それを参考に8月22日の全体会ではある程度方向性を決めて案の方を出させていただきたいと考えている。

【久委員】 今日の説明は、いろんなことをお話しし過ぎてどこがポイントかということが薄まってしまっていると思う。私が今日お話を聞いた中で一番の柱、ポイントというのは、基本構想と基本計画を切り分けて、基本計画の方は市長の方針を書き、基本構想の方は市民も含めて生駒で暮らし、事業をする方々の方向性、方針を書くと、この2つに分けさせてもらいたいということが私は一番ポイントだったと思う。そうなったときに基本構想は何を書くべきなのか、基本計画は何を書くべきなのかという議論があって、さらにそれをどういう期間で書くのかというようなストーリーではなかったのかなと思う。

今日一番抜けていると思ったのが、それをどういう手続でだれが作り、決めていくのかというところだったと思う。特に問題は、基本構想をみんなで作るというけども、そのみんなとは誰か、どうやってみんなで決めるという手続をとるのかという点にある。今までのように行政が素案を出して議決をしてもらうということで、みんなで決めたと言うのか、あるいは、今回もそうだったが、以前に懇話会というのを開いたが、多くの市民の方々から出てくるクレームは、一部の市民で決めたのではないのかというような話がある。そうすると、みんなというのは一体何をもってみんなと言うのかとか、どういう手続でみんな

というようにしていくのかというのは、これは非常に重要な問題なのだが、これはなかなかうまい手続というのが見えていない。

ちょっと脱線話になってしまうが、そうすると、議会と市民という関係はどうなるのかという話まで踏み込まないとそのあたりは解決できない問題で、今、市民参画が進んでいるが、議会の方からは、市民参画の場面と議会という存在はどういう関係になるべきなのかという問題提起をされている。そこもかなり連動してくる問題なので、今日一番重要なところが実は余りきちんと御説明、御提案がなされていないのかなというように私は思った。

私の個人的な話で言うと、構想と計画というのを分けていただいたことは、今日の御提案どおりでいいと思うが、これをつなぐものというのが必要だと思う。基本構想を受けて基本計画ができ上がっている。つまり、もっと違う言い方をしたら、我々の意見が市長のやり方をも縛るよというようなことになっておかないといけない。マニフェストに基づき勝手に基本計画を進められたら困るわけで、基本構想に基づいて基本計画ができ上がってくるというところで、何を担保にそれをするのか？といたら、私は1つは「目指す姿」だと考える。だから、「目指す姿」は今度からは基本構想の方に位置づけてもらって、それを受けて基本計画の一番頭にすると、両方に「目指す姿」が書かれており、そして、「目指す姿」に基づいて基本計画が動くというスタイルになるから良いと思う。ほんのささいなことだが、ここは重要なことではないか。ほかのうまい方法もあるかも知れないが、私の提案としてはすばっと分けるよりも両方に書かれている項目というのがあった方がいいのではないかなと思う。

先ほども申し上げたように基本構想と基本計画がどういう役割分担をするのかということと、その内容というものが決まってくるので、そのあたりはもっときちんと柱を置いて議論をすべき話ではないのかなと感じた。基本的には私は今日の事務局の御提案どおりでいいと思っているが、そこへ持ってくる説明の仕方とかストーリーというのがもっと明確に明快に説明できるのではないかなと思ったので、お話をさせていただいた。

今の世の中と言った方がいいと思うが、私がよく分からないなと思っているのが、お一人お一人が持っているとか、政治家も含めて、目指すべき社会像というのがかなり多様化しているにもかかわらず、その一番根底の目指すべき社会像ということが議論できていないし、それから、昨日も選挙があったが、それぞれの政党がどういう社会を目指しているのかということがさっぱり見えない。何をやりたいかという戦術は分かるが、それが実現

する、あるいは何のためにというところに目指すべき社会像があるが、目指すべき社会像がさっぱりよく分からないというのが、政治から市民が離れているというところに示されているのではないかなと思う。

私は市民活動の現場でお話をしていても、お一人お一人が持っている社会像というのかなり違うと思っている。そこを共有しておかないと基本構想というのはできないはずだ。そういう議論をぜひとも、これは次の次のステップだと思うが、やはりやっていかないといけないのではないかなと思う。

それから、もう1つついでにお話しさせてもらおうと、指標は何のために作っているのか、追いかけていかなければならないから作っているみたいな話になっているのではないかなと思う。大学も評価される現状のもと、自分自身もそうだが、その評価をされる立場になって思うと、これは当たり前だろうと思う。自分がやっている仕事はどうなったら成功と言えるのかということを持っておかないと、「頑張ってます」とか「汗をかきました」の話にしかならないのだと思う。自分がやっている仕事は何のためにという目的、目標があって、それがどうなったら成功と言えるのかということを一一人が持たない限り、いつも「時間をかけました」とか「頑張ってます」みたいな話になってしまうのではないかなと思う。そこを明らかにするのが指標だと思う。

指標を作らなければならないのではなくて、それを常に意識しておかないと成功するしないということが分からないし、反省しなければ次のステップに行けないわけなので、そういう目でもう一度指標というものは一体何なのかということを確認していただければならないと思う。

ちなみに大学においては、一番大切なのは受験生が集まるか集まらないかということだが、そうすると、市役所のそれぞれの方の仕事は何を手がかりに、何を目標に頑張っておられるのだろうか。市民の幸せって漠然としているが、市民の幸せって、一体それぞれの仕事はどうなったらあなたのやっていることは市民の幸せにつながっているのかということをもっと具体的に持たないと、1年間頑張った成果というのが見えてこないんじゃないかなと思うので、そこは再度、くどいようだが、確認をさせていただいた。

**【楠下委員】** 第4章に生駒市の将来都市像というのがあるが、これが何年にどの姿にするかということ、長期的なスパンで考えその姿を明確にする必要がある。その次に、この計画が4年計画とするのであれば、その4年計画の中でこれだけやるということ、全市民が意識して先の姿を描いて、それに対して行政、市民、事業者が協力していくと、

こんな形に何とかならないかなと期待している。

駅前の再開発でも多分20年近くかかっていると思うが、そういった長期的な見方と並行してやっていただきたいと思う。

**【中川会長】** 今日の議題となっているのは、現在のところの総合計画の前期計画のこれまでの進捗状況を各班に分かれて作業しましょうというのが最初の実務的な話だった。それが終わった上で後期基本計画の話をするということだった。したがって、この基本構想は平成30年までは有効であり、これをさわるという話ではまだない。ただ、後期基本計画を作るときに、次なる第6次の総合計画へのステップも見通しながら作業を進めなければならないので、次の基本構想も含めて意識しといた方がいいという話。後期基本計画を策定するに当たって、今の基本構想も変えるという話ではない。その辺は誤解のないようお願いしたいが、基本構想というのはそれほど重要なものなんだということを御説明いただいたと思う。

それから、指標というのは、事務局も公表したり各担当課からも出してくださっているが、中には、余りにも中長期でないと答えの出ないアウトカム指標というのが設定されているケースもあった。また、アウトカムと連動しないと思われるようなアウトプット指標を「頑張ってます」「頑張ってます」「汗かいてます」と出しているケースもあった。これはまだまだ研究と改善が必要だなというのがこれまでの評価してきた、作業してきた上で各人の実感だと思うので、指標はなくしてしまったら困るということ。

ただ、基本計画の中に指標を入れるかどうかというのは、事務局提案は補足資料として扱いたいということで、これは私は別に構わないと思うが、総合計画を動かす上でのツールであるということは確認しておいた方がいいと思う。

現状では基本計画部分に記述される項目が細か過ぎて、議会の議決対象というのは議会の皆さんにすごい負担がかかるなとも思う。むしろこれは実施計画に近いレベルではないのかと思ったものもあるので、もう一遍それは精査しましょうということ。それは後期計画の策定でできるということである。

**【福島委員】** 各委員の意見のある程度醸成させるためにも、第4回の全体会ぐらいを設ける必要があると考える。検証結果を踏まえたくて第3回全体会のみで意見を述べるのは足りない気がする。

**【事務局】** 例年の第3回全体会では、検証の取りまとめを議題として、比較的短時間で終わっていることが多いので、できたらその第3回にある程度議論をしていただきたい

など思っている。その上でもう一度審議する必要が出てくると思うので、9月ぐらいに予定をしたい。

【森岡委員】 審議会の答申の位置付けについて。本審議会で答申の後、新たに審議会を設けてそこで審議を進めるのか。もしくは審議会は別途に設けず、本審議会の意見がそのまま答申となる形となるのか。

【事務局】 本審議会で進行管理と次期総合計画を策定するための審議をお願いします。ただ、最終的な決定になるまでには市の中の内部の委員会、市職員での委員会、それから議会の議決、という過程を経るが、その中で部分的な修正というのがある可能性はあるが別途に審議会は設けない。

【森岡委員】 それならば、福島委員がおっしゃるように十分に検討する時間が必要だと思う。

【事務局】 まずは進行管理をしていただいて、その後に後期基本計画について手直した内部の案を、再び3つの部会に分かれていただいて御審議していただこうと考えている。おっしゃっていただいているような形で十分審議できるような時間は取らせていただく予定。

【中川会長】 確認したい。この審議会の目的は、後期基本計画がどうあるべきか、それだけだと思う。基本構想はどうあるべきかなんてまだ先の話であり、運用期間も過ぎていない。ただ将来的にこうなる見込みだという話を事務局はただけのことだと私は思う。明確な作業は、検証作業をした上で後期基本計画はこうあるべきだろうという、一連の作業の経験を踏まえて意見を述べていただくということを委員各位に期待していると考え。だから、諮問事項においては、後期基本計画はどうあるべきかだと思うし、それに対して答えを返せばいい。

その次も、第6次総合計画もしくは基本構想をどうするかというのはまた別の審議会になってくるだろう。時代が変わって、多分また何年か後のことなので、そのときはまた違う委員会だというようにご理解いただきたい。それでは、ちょうど定刻12時になりましたのでこれもちまして第2回審議会を終わらせていただきます。